

# 緑化だより

No.69 平成24年1・2月合併号



冬のセンター池 平成23年1月15日撮影

新年は1月4日からの開園となります。新年も宜しく申し上げます。

○きのこの味“辛い味のきのこ(1)”

○サクラのあれこれ (10)

○野鳥の世界

○季節の植物

○研修会紹介

○お知らせ・ご案内

**生き物いっぱい 自然いっぱい**

**広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園**

**〒732-0036 広島市東区福田町 166-2**

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)

# きのこの味

## 辛い味のきのこ(1) ツチカブリ(土被)

きのこの名前を判別する時、その判断材料の一つに“味”があります。生のきのこを少しだけかじってみるのです。味が無いものが多いのですが、中には辛いとか苦いとか酸っぱいものもあります。

今月は辛い味のきのこをとりあげます。

ツチカブリは夏～秋にマツ林や広葉樹林に発生し、全体が白色ですが褐色のしみが出ることが多いです。



ツチカブリ

名前のおり土を被<sup>なぶ</sup>っていることがよくあります。ひだは非常に密です。傷をつけると白色の乳液が出ます。この乳液を舐めると非常に辛いのです。きのこは毒とされていて消化器系中毒症状を起こすようです。

白色で乳液が出る、似たようなきのこはいくつかありますがどれも食用になりません。乳液が青く変色するアオゾメツチカブリ、ひだが疎であるツチカブリモドキ、傘の表面が微毛状でひだが疎なケシロハツ、傘の表面が微毛状でひだが密なケシロハツモドキなどです。

## サクラのあれこれ(10)

サクラの原産地はヒマラヤ地方とされています。そこから縄文人と共に 3 万年前ごろに日本に上陸しました。縄文土器にサクラの花びらがあったことから、日本での歴史の古さを示しています。

その後二千数百年前に、弥生人が中国大陸から朝鮮半島を経由してウメと共に渡来し、縄文人を征服しました。それからしばらく、サクラに取って代わってウメが花の主流を占めることとなります。しかし、11 世紀に入



ヒマラヤザクラ

ると再びサクラがウメを抜き、日本の花として愛されてきており、今日まで消長を繰り返しながらもトップの座にあります。古くはヤマザクラが花見の対象でしたが、やがてヤエザクラに移ります。

サクラの野生種は 10 種(分類により種の数異なる)で、エドヒガン、ヤマザクラ、オオシマザクラなどがよく見られる種類です。これらが自然交配や人工交配を繰り返し、400 種を超える新しい品種が生まれました。

ソメイヨシノが現れるのは江戸末期で、江戸の染井村(東京都豊島区駒込)の植木商から「吉野桜」として売り出されたのがはじめです。

当時は、大和の吉野山のサクラが有名でヤマザクラの名勝地であったため、「吉野桜」として売り出し、あっという間に江戸中に広まりました。成長が早いこと、10 年もたてば立派に花見が出来ること、葉より花が咲きに開いて、全樹を覆い尽くすこと等その華やかさが人々を魅了しました。

「吉野桜」として植えられた上野精養軒前の並木のサクラが、吉野山のサクラと全く異なることに気付いたのは、当時の博物局(現東京国立博物館)天産課に勤めていた藤野寄命(フジノヨリナガ)氏

で、調査を重ねて明治33年(1900)に正式に「ソメイヨシノ」と命名し「日本園芸雑誌」に発表しました。学名の *Purunus* × *yedoensis* Matsumura は、東京大学の松村仁三博士の命名によるものとされますが、藤野博士の命名が先のようなのです。

ちなみに、「日本の桜」(Gakken 2001年3月発行 フィールドベスト図鑑)、「新日本の桜」(2007年3月 山と溪谷社)など、近年のサクラの書籍では、学名が *Prunus* ではなく、*Cerasus* となっています。これは、サクラの分類について、スモモ(*Purunus*)属に入れる考え方に対し、サクラはサクラ(*Cerasus*)属とするという考えによるものと思われます。

## 野鳥の世界

### ジョウビタキ

立冬が近づくと、“ヒーツ・ヒーツ”と一定の間隔を置いた、鮮明な鳴き声が響いてきます。

ジョウビタキです。

北方の沿海州やシベリア地方から、冬の寒さを避けて暖かい日本列島で冬を越すために渡ってくるのです。

スズメをスマートにしたようなプロポーションで色も頭頂は白っぽいネズミ色、顔と背中中は黒、胸は栗色、枝に止まっているときには、風切羽に白い紋がよく目立つことから中国地方では、『モンツキ』、『モンツキドリ』などと呼ばれます。和名の『ジョウビタキ』は、その鳴き声が“ヒツ・ヒツ”とか“カッ・カッ”と聞こえることから、火打石を打つ時の音にちなんで「火焚き」を語源にしているという説や、火吹き竹を使って火をおこす時の焚き火の音に似ているからなど諸説あります。

田畑から林の境目の草地に棲みついて、主に地上の昆虫や低木の実を採食します。一定の地域にテリトリーを決めて巡回する習性があり、日々の巡回もほぼ同じ時間です。そのタイミングを狙って待っていると、どこからともなく姿を現します。

雪積期にもテリトリーの中に居ついて、人が近くに来てもあまり恐れず、除雪して地面や落葉を広げると、待っていたように虫を求めて近づいてきます。



ジョウビタキ

## 季節の植物

1月、2月の緑化センターはとても静かです。でも良く観察すると、園内の植物は、着々と春を迎える準備をしています。

園内のツバキ、サザンカは、12月から白や赤の花をつけています。2月中旬になるとロウバイ、アテツマンサク、ミツマタ、アセビなどの花がつぎつぎと咲いてきます。

12月にも咲いていました十月桜や冬桜は、春になれば再び開花します。

ソメイヨシノは固い芽で冬の寒さに耐えており、この寒さが厳しいほど美しい花を見せるようです。



朝の霜に白く縁取られたサザンカ

# 研修会紹介

- 1月 6日(金) 『春の七草教室』 10:00～12:00 学習室 集合  
春の七草の学習と七草粥の試食 (要予約) 講師: 緑化センター 職員 正本 良忠
- 1月 22日(日) 『コケ玉作り教室』 10:00～12:00 学習室 集合  
コケ玉にしてミニ盆栽を作ります (要予約 先着 30名、材料代 1,000円)  
講師: 森林インストラクター 長井 稔
- 2月 11日(土) 『2月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前 集合  
2月の樹木を観察しよう 講師: 環境省 稀少野生動植物  
種保存推進員  
吉野 由紀夫
- 2月 19日(日) 『山野草寄植教室』 10:00～12:00 学習室 集合  
節分草を使って寄植しよう (要予約, 先着 30名, 材料費 1,500円)  
講師: 森林インストラクター 長井 稔
- 2月 26日(日) 『第1回ジャンボ椎茸植菌教室』 10:00～12:00 学習室 集合  
ジャンボ椎茸を育てよう (要予約, 先着 30名, 材料費 500円)  
講師: 日本きのこセンター 入江 淳人

## ♪☆お知らせ・ご案内☆♪

### レストハウス・ボード展示

- 秋の写真コンクール写真展 12月 8日(木)～ 1月 15日(日)  
平成 23 年度秋の緑化写真コンクールの作品を展示しています。
- 緑化ポスター原画コンクール入賞作品展 1月 20日(金)～ 2月 19日(日)  
緑化ポスター原画コンクールの入賞作品を展示します。
- 緑化センターの四季 2月 24日(金)～ 3月 25日(日)  
緑化センターで四季見られる花の写真展です。

### レストハウス・ガラスケース展示

- 緑化センターの野鳥の巣展 12月 7日(水)～ 2月 5日(日)  
緑化センターの様々な野鳥の巣を展示しています。

・ 合格祈願「ヤマコウバシのお守り」を差し上げます。(管理事務所にて、1人1枚、無料配布)

・ 年末・年始の休園日は 12月 29日(木)～1月 3日(火)です。

・ レストハウスの営業は、年末 12月 27日(火)まで、  
年始は1月 5日(木)から営業致します。

・ 園内は、場所・時間により積雪や凍結する場合がありますので、ご来園の際は、気をつけてお越し下さい。



ヤマコウバシのお守り